



# MieTLO

MIE TECHNOLOGY LICENSING ORGANIZATION

## 三重 T L O 技術情報クラブ会報

No.21

2012年 8月

### CONTENTS

聖書の教えを守り産学連携の推進を	1	研究室紹介	4
こんにちは！「三重大学自然災害対策室」です。		会員企業紹介	5
ニックネームはD i M Oです。	2	三重 T L O 技術移転および特許情報	6
行事案内	3	第 11 期 (2011 年度) 営業報告	7, 8

### 聖書の教えを守り産学連携の推進を

三重大学学長 内田淳正

出張先のホテルで手持ちぶさたになることがある。そんなとき、ホテルに備え付けの世界のベストセラーである聖書を開くことである。最初は嫌々開くのであるが、読んでみるとこれが意外におもしろく考えさせられる。

「あなたは、今どこにいるのか」通信、交通手段の発達に相俟って、人の行き来は速く激しく、情報は氾濫し、我々を取りまく環境は著しく複雑となってきた。あまりにも多い誘惑に出会い、それに負けるのに何の苦痛も感じなくなり、刹那のなかで劫への感覚が薄れ、自分の日々を正直に見据えた自覚が失われることになる。日々の生活はもとより、業務の実践の中でたえず「どこにいるのか」と呼びかけ、自分が今どの地点をどの方向に進んでいるのかを答えつづけた。そうすれば同じところに停滞したり、後ずさりしていることがわかり、シーズとニーズの結びつきの課題が浮かび上がってくる。

「夕となり、朝となった」一日は日没に始まる。暗闇の不安や恐怖に耐えよ、そうすれば光輝く希望に満ちた未来があるとのことであろう。病気になる前の自分は好きでなかったが、今の自分はどうしても好きなので大切に生きたいと明るく話す中学3年の女の子。苦しい治療を乗り越えてきた自信で、未来を自ら築き上げる積極性に満ちあふれた顔が目の前に浮かんだ。連携には積極性と明るさが求められる。その夜は、安らかな眠りとすばらしい朝を迎えた。素敵なお朝は長くは続かなかった。携帯電話がなり、私の心臓が高鳴る。案の定、大学より心が凍り付く緊急連絡である。

「私は、季節季節に雨を与えるであろう」との言葉がある。世界でもとりわけ臨床医学の実践に

優れているMayo Clinicを訪れた時に、ここでのシステムはそこで働いている人々をいかに効果的に生かすかという基本思想に貫かれていると感じた。職員がそれぞれの持ち場で生き生きと自信にあふれて働いていた。そこには、季節季節の雨の恵を受けて素晴らしい果実や穂を实らせた植物と同じように、人々も活かされているようだった。そのためには、必ずしもその場での経済効率は優先していない。経営の効率化は重要であるが、そこで働く人の意欲を掻き立てるような仕組みを作らなければならない。日本人は季節の雨がなくても実によく働く。損して得(徳)を取る気持ちは連携では大切である。

「安息日には、あなたたちの住まいのどこでも火をたいてはならない」これは、炊事などに火を使ってはならないということで、女性や使用人を家事労働から休ませることを願っての教えでしょうか。女性が働きやすい環境をと声高に叫ばれ、託児所の充実が求められています。しかし、もっと大事なことは世の男性が積極的に育児や家事に関与することではないでしょうか。今からでも遅くはありません。妻に安息日を。ある人は言うかもしれません「妻は6日が安息日で1日が仕事日だ」と。私にください安息日をかみ切れません。相手がよく見える気持ちを捨て、同じ立場での考えをもてれば産学連携は成功するだろう。

長い出張だと自宅の枕が恋しくなる。疲れた身体で帰宅し、久しぶりの妻のそばでぐっすり眠ることができ、神が光を朝となすけた爽やかで素晴らしい夕方ぶりの休日が始まる。それとは対照的にひとときの安息を終えこれからの苦痛に耐えようとしている妻の迷惑そうな顔が迫ってくる。

(禿鬢通信を改変)

# こんにちは！「三重大学自然災害対策室」です。ニックネームはD i M O<sup>ダイモ</sup>です。

三重大学学長補佐・自然災害対策室長 畑中 重光

## 1. 室長より一言



三重大学では、2003年の「災害対策プロジェクト室」発足後、主に防災研究を推進してきましたが、2009年に「自然災害対策室」（略称 D i M O=Disaster Mitigation Office）として発展的に改組し、三重県に立地する総合大学として地震・風水害等の自然災害に

対する防災・減災活動に取り組んできています。

D i M Oには現在、三重県の協力を得て3名の防災対策コーディネーターを配置し、大学教員と共に地域防災や企業防災等の活動を行うとともに、「美し国おこし・三重さきもり塾」や「三重大学防災室」と協力して、防災人材の育成、防災啓発・研修等の社会貢献活動を推進しています。本室の活動に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## 2. 活動内容

### 【地域防災・人材育成等】

三重県・市町・防災関係機関・地域の企業等が実施する防災事業、自治会や自主防災組織が行う防災活動の支援及び連携のコーディネートを行っています。

本年度は、三重県と協働して、次の取り組みを行います。

#### ①女性防災人材の育成

東日本大震災において、避難所運営にかかる女性視点の不足などが課題とされたことを踏まえ、市町・地域・企業における防災対策における意思決定や防災、災害時の活動において女性の視点で活動ができるよう、専門職にある女性を中心とした人材の育成を行います。

#### ②さきもりジュニア育成事業（小・中・高校生対象）

夏休みを利用して、小学生、中学生、高校生を対象にそれぞれの発達段階に応じた防災教育を行います。

#### ③自主防災リーダー研修（県内9地域で開催）

災害時における率先避難や避難所運営の主体となり、地域防災の要である自主防災組織の指導的立場にある方々を対象として、高度の知識、技術を習得して頂くとともに、その役割についての自

覚を高めるための研修を実施します。



#### ④地域防災企業力活用事業の実施

市町防災力診断の実施、企業防災シンポジウムの開催、「みえ企業等防災ネットワーク」の運営、分科会の実施等、地域防災力向上のための研修を開催します。

#### ⑤みえ防災コーディネータースキルアップ研修

東日本大震災を教訓として、地域に密着したアドバイスや実践指導の役割を担い、他地域との連携強化など広い視野で地域防災力強化に導く人材として活動して頂くべく、徹底したスキルアップを図ります。

#### ⑥みえ防災コーディネーター育成講座の開講およびみえ防災コーディネーター連絡会事務局の運営

みえ防災コーディネーター育成講座は、7期目を迎え、今年は約90名の受講希望者がありました。6月24（日）に開講し、11月11日（日）までの13日間、全32講座を実施する予定です。この講座の開講に加えて、これまで育成してきた「防災人材」を活用し、様々な団体と協働して、県域をカバーする防災ネットワークである「みえ防災コーディネーター連絡会」を運営し、災害に強いまちづくり活動を支援します。

#### ⑦自主防災組織活性化支援事業

昨年度、三重県内における自主防災組織の実態調査を実施しましたが、今年度は、得られた調査結果をもとに、県内の自主防災組織の活動支援を行います。

### 【防災研究】

教員の個人または組織的な防災関連研究を支援・推進するとともに、他大学も含めた教員間・専門家の連携を深めます。

過去に巨大地震や甚大な風水害・土砂災害をたびたび被った三重県を、国内有数の「自然災害に強靱な地域」にすべく、学内の教員等の協力を得

て、防災・減災に関する実践的研究を推進しています。ここでは、理学的なアプローチによる災害メカニズムの研究から、工学的なアプローチによる「対災害」や「耐災害」的研究、さらに医学看護学的、人文科学的な研究など、様々なアプローチによる取り組みを行っており、これらを一層推し進めてまいります。

### 3. 所在

三重大学社会連携研究センター3階  
TEL/FAX 059-231-5486  
E-mail: info@dim0.mie-u.ac.jp



## — 行事予定 —

### ●企業防災・BCP 講演会 ～三重 TLO 交流会～

日時：9月11日（火） 13:30～18:45  
場所：三重大学講堂小ホール

#### 1. 講演：

「三重県における巨大地震災害のリスクと対策」  
三重大学大学院工学研究科 川口淳氏

#### 2. 企業招待講演：

- ①「地盤液状化危険度の調査方法」  
松阪鑿泉(株) 代表取締役 由井恒彦氏
- ②「地盤改良技術～エコジオ工法の開発」  
(株)尾鍋組 代表取締役 尾鍋哲也氏

#### 3. 技術講演：

「地盤の支持・排水対策、切土のり面の抑止対策」  
三重大学大学院生物資源学研究科 酒井俊典氏

#### 4. BCP セミナーの紹介

(懇親会 17:20～18:45)

### ●三重大学工学部研究紹介・研究室訪問 ～三重 TLO 交流会～

日時：11月6日（火） 13:30 開会予定  
場所：三重大学講堂小ホール他

三重大学工学部の研究概要紹介後、グループに分け、各グループ3～4カ所の研究室を見学します。

### 《三重TLO共催事業》

### ●企業防災・BCP 策定セミナー 三重大学社会連携研究センター公開講座

(主催：三重大学社会連携研究センター)  
場所：三重大学社会連携研究センター3F  
参加費：40,000円程度を予定  
募集：20社（9月上旬から募集します）

10月29日から6回セミナー(月1回)を開催、参加企業ごとに各企業に適したBCP(事業継続計画)を策定します。三重大学の防災研究の成果、専門講師の指導、実践的な防災訓練、グループ協議などで、予備知識や経験がなくてもBCP策定が可能です。

## ◆ 研究室紹介 ◆

三重大学大学院生物資源学研究所  
共生環境学専攻流域保全学研究室

教授 成岡 市

東京渋谷駅前の「忠犬ハチ公」の飼い主をご存知ですか。上野英三郎（うへの ひでさぶろう）といひまして、明治以降の近代農業土木学の第一人者であり、三重県久居（現 津市）出身の学者です。また、上野博士は、農業土木学（農業工学）の創始者として、効率的な農業生産基盤整備の礎を築き、各地で技術指導を行いました。そして、東京帝国大学に農業土木学の専修コースを、三重大学（三重高等農林）に農業土木学科（現在の地域保全工学講座）を創設しています。

当研究室はその流れを継承し、「農地工学、農地保全学、土壌物理学」などの専攻分野として看板を出しています。

最近では、産学連携の取り組みとして「民間主導型農地整備方式の研究開発ならびに施工・管理の実施」という課題の共同研究を進めています（※1）。

加えて、熊本県「塩トマト」栽培のノウハウを調査・研究し、四日市市の新しい特産品を目標とした栽培プロジェクトにも参画し、地域の農業研究センターとともに共同研究を進め、食品流通企業などと協働で事業化を目指すなど、大きな期待が寄せられています（※2）。

海外においては、ブルネイ・ダルサラーム国の土地改良に関する国家プロジェクトに取り組んでいます。ブルネイ国は、酸性硫酸塩土壌が広範囲で分布していて作物が育ちにくく、食料自給率は4%に足りません。地面を掘ったら硫酸成分が湧き出してくるといふ「問題土壌」が国土面積の多くを占めています。同国は産油国のため経済は豊かですが、今後の農業生産自給率に危機感を募らせていて、国をあげて食料増産に取り組んでいます（※2）。

日本では、弥生時代を発端として農業土木技術が蓄積されていますが、上野博士を祖とする近代・現代農業土木の技術と学問には誇れるものがあります。当研究室では、情熱ある企業を応援し、ともに問題解決に向けて取り組みたいと考えています（※3）。

<参考情報>

■四日市フロント

※1) <http://y-front.jp/index.php?research8>

※2) <http://y-front.jp/index.php?research9>

■流域保全学研究室（教育研究分野）

※3)

<http://www.bio.mie-u.ac.jp/kankyo/chiiki/ryuiki/>

三重大学大学院工学研究科機械工学専攻  
エネルギーシステム設計

プロジェクト研究室 エコ・プロダクツ（兼務）

准教授 丸山直樹

当研究室では、伝熱、エネルギー変換、環境影響評価に関する研究を中心に行っています。その中で、過熱水蒸気を利用する廃棄物の再資源化、熱交換器の開発、新冷却方式の開発、工業製品の環境負荷評価を行っています。これらのほとんどは、企業との共同研究として行われています。

過熱水蒸気は食品の調理や加工でよく目にされますが、工業分野への適用を試みています。過熱水蒸気を用いることで高温の不活性雰囲気に対象物を加熱でき、廃棄物を乾燥、脱脂、消磁、分解することが可能です。現在取り組んでいる研究は、企業との共同申請による経済産業省の補助事業で、高効率な廃棄物の再資源化を目指しています。

熱交換器に関しては、既存の概念にとらわれない構造の簡易化、性能向上、価格低減を目的に、理論的考察も交えて機器の開発を行っています。機器構成部品の自社開発により、企業の独自性をアピールできる製品開発を目指しています。

新冷凍機の開発は、現在主流の冷凍サイクルとは全く異なる冷却方式の研究開発を行っています。

空調機や冷蔵庫を始め、民生用、業務用共に冷却機は必要不可欠なものとなっています。脱冷媒、省エネルギー冷凍機の開発を目指しています。

最後に、工業製品が環境に与える影響を、ライフサイクルアセスメント手法を用いて資源調達から製造、使用、リサイクル／廃棄にわたって分析する研究も行っています。各段階での影響を定量的に示すことにより客観的に課題を把握することができ、その具体的な対策をたてるために役立っています。

プロジェクト研究室エコ・プロダクツは、三重大学と富士電機リテイルシステムズ（株）との包括連携協定に基づく研究室で、主に飲料自動販売機の省エネルギー化に向けた研究開発や環境への影響評価を行っています。2012年度で、研究室設置から6年を迎えます。省エネルギー化には、構成機器そのものの性能向上とその制御によるものがあります。機器の性能向上に関しては、開発者の経験に理論的考察を交えて改善しています。また、機器の制御に関しては、フィールド試験により設置環境に適切な制御方法を提案しています。今後も、社会に貢献できる研究を進めていきたいと思っています。

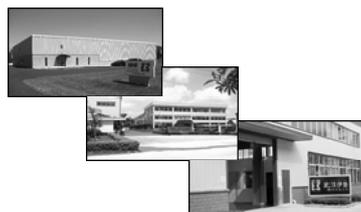
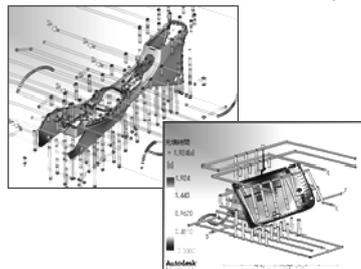
## ◆ 会 員 企 業 紹 介 ◆

### 伊勢金型工業株式会社

〒515-0508 三重県伊勢市柏町 1137-1  
TEL 0596-37-1933 FAX 0596-37-2584  
E-mail : tutomu\_nakagawa@imi-wwg.com  
http://imi-wwg.com

#### ■射出成形用金型・量産成形

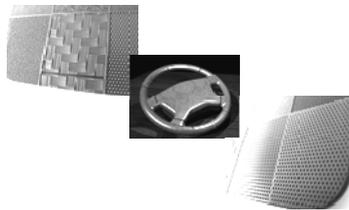
100t～2500 t までの射出成形用金型の製作から量産成形を行います。家電より自動車の樹脂部品の金型を得意としており、二色成形、加飾シート用金型、磁性金型も得意としております。



#### ■特徴

##### ①流動解析

金型を作製する場合、無料で流動解析を行い提案させていただきます。



##### ②海外トータルサポート

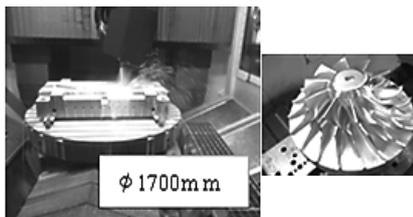
中国2拠点（広州・武漢）北米（オハイヨ）に拠点をもち、金型の初期検討から量産立ち上げ、成形量産までサポート

##### ③先端技術

レーザー加工による微細加工、加飾による今までにない金型の提案

##### ④大型5軸加工

大型5軸加工機を保有しており、φ1700の円テーブル、8 t までの自動5軸加工可能！



### 株式会社 アポア

〒514-0815 三重県津市藤方 1704-2  
四日市市小山町 2727

http://apoa.jp/

#### 1次産業を復活させる壁面緑化ピコガーデンの役割

植物と触れ合う事で、その価値を知りそれぞれに相応しい扱いが出来る感性と方法が身につきます。また、匂いや感触を知ることによって生命あるものに対してのかかわりを学ぶことが出来ます。

仲間との共同作業で、人との繋がりを広げる事ができ、それぞれのオリジナルを作る事で、自分の物へのこだわりや競争心を刺激する事が出来ます。一人ずつが外して持ち帰る事が出来る為、個人の思い出を作ることが出来ます。

絵を描いてデザインしたり、形を変えてスタッキングできるので、団体での創意工夫を楽しめます。幼稚園・小学校の花育や植育などの教育に使う事で、それをきっかけに将来、植物を扱う仕事につき、1次産業を復活させる事が出来ればと考えています。

#### 外壁からインテリア・エクステリアまで幅広く壁を緑化

スタッキング式なので、大きさを自由に設定でき形は3タイプ、色も8色あるのでデザインや色の組み合わせのバリエーションが出来ます。取り付け、取り外しが簡単なので、メンテナンスが容易に出来、管理しやすい商品となっています。



## 三重 T L O の技術移転および特許情報 (No. 21)

### 1. 平成 23 年 4 月～24 年 3 月の特許出願状況

平成 23 年 4 月～24 年 3 月の期間に、三重大学より出願しました特許出願件数は下表のとおりです。

分野	単独出願	共同出願	合計
医薬品	1	4	5
医療関連	1	6	7
福祉	0	2	2
バイオ	3	5	8
食品	1	1	2
環境・エネルギー	2	2	4
材料	0	3	3
リチウム電池	0	4	4
建築・土木	0	1	1
電気・機械	0	3	3
電子・デバイス	1	3	4
情報	5	1	6
総数	14	35	49

上表に示しますように昨年度の特許出願は大学単独（他大学等との共願を含む）の出願が 14 件、企業等との共同出願が 35 件で、合計出願件数は 49 件と、平成 19 年から 4 年間続いた 50 件以上が僅かに達成できませんでした。しかし、この 4 年間、大学と企業との共同出願件数は 37～35 と殆ど変化なく、大学単独の出願件数が 11～23 件と大きく変動しております。

分野別ではバイオ関連の出願が最多で 8 件あり、これらすべてがリグノフェノール誘導体から耐熱性ポリマーを合成する発明でありました。また、リチウムイオン 2 次電池関連技術の特許出願件数は 4 件で、前年度の 7 件よりは少ないものの、過去の蓄積を考えれば知的財産は順調に蓄積されていると思われます。

### 2. 実施許諾可能な特許出願の概要

前記特許出願のうち、第三者への実施許諾可能な特許出願 11 件について、その概要を以下に紹介致します。

分類	知的財産の名称	発明の概要
医療	懸濁粒子均一化器具	2本のシリンダを直角に組合わせ、内部の機密状態を維持して連結させる。該シリンダをピストン運動させて2本のシリンダに入れた懸濁粒子を均一に混合させる器具。
	ヒト TGFβ1 を発現するトランスジェニックマウス	遺伝子組換え技術を用いて作成した遺伝子をマウス杯に注入し、肺の部分に特異的に TGFβ1 を発現させる呼吸器関連疾患、特に肺線維症を自然発症するトランスジェニックマウスを提供する。
バイオ	リグニン系材料、その製造方法及びその利用	リグノフェノール誘導体をアルカリ性水性媒体に溶解し、酸で中和して得られる熱特性に優れた、リグノフェノール誘導体由来のリグニン系材料を提供する。
	耐熱性リグニン系ポリマー及びその利用	リグノフェノール誘導体の水酸基をアシル化し、エステル部位を形成したリグニン系ポリマーは、構造変換機能を維持し、良好な耐熱性を有することを確認した。
	熱可塑性樹脂組成物及び成形体	バイオマス材料であるリグノフェノールをアシル化することで、難燃性及び高流動性などの高機能化特性を有する成形外観に優れた熱可塑性樹脂成形体が得られた。
情報	構造物内空変位計測方法及びその装置	トンネルなどの構造物内側に内空変位モニタ用梁の一端を固定し、梁の表面にひずみセンサを設置し、このひずみセンサにより計測されたひずみから、当該構造物の鉛直方向および水平方向の変位を算出する。
	強磁性体を有する球の異方性と疲労損傷を評価する方法	強磁性体材料を含む被測定物を一様磁場下で回転させ、このとき誘起される磁界変動を、磁気センサーで計測し、焼結体材料の内部不均一性や、磁性体材料の疲労損傷程度を評価する。
食品	コーヒー飲料の製造・保存過程における品質計測装置及び品質計測方法	中赤外光の吸収、透過、散乱等を測定することで、コーヒー飲料の製造、保存過程における品質変化を簡便に評価できる。
	色彩画像撮像・外観特徴解析システム	円錐光源などを用いた光源内に対象物を設置して撮像する。撮像データから形状、色彩、サイズうち少なくとも2つのデータを抽出し、統計解析、若しくは外観特徴距離を可視化し、人の目に近い農産物の栽培や、品質管理等に活用する。
	色彩画像撮像・解析システム	立体拡散光源内に対象物を設置し、CDE に基づく画像解析工程と、Color Histogram に基づく色彩解析工程を経て、対象物の表面反射を除去、軽減する色彩画像撮像システムを提供する。
環境	土壌病害防除に有効なタンパク質	菌由来の糖質結合モジュールを水溶液にして、ハウレンソウ、トマト、イチゴなどの植物の茎、葉に散布して使用する土壌病害防除剤。

以上に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

(株) 三重 T L O 技術移転部長 杉山早実 e-mail: sugiyama@za.ztv.ne.jp  
Tel 059-231-9822 Fax 059-231-9829

## 第11期（2011年度）営業報告（自 2011年4月1日 至 2012年3月31日）

### I 営業の概況

当年度は、当初概略計画である営業利益での黒字達成は果たしたものの、特許流通アドバイザーの派遣費用の自社負担増など、事業仕分けなどに伴う助成制度の縮減や国の共同研究委託が昨年度で終了、などの事情もあり、以下に示しますように、経常利益は大幅に減少して2,047,470円（前期比、約740万円の減少）となりました。以下、各項目について説明します（千円単位）：

#### 1. 収入について

① 会費収入：11,360千円。

会員数の減少には歯止めがかかり、前年度に比べ会費収入は約20万円増加しました（会員数：190）。企業・団体の種々の要望・技術ニーズに対して、掘り下げて理解したうえで、大学・研究者の支援・協力を得ながら対応する努力の効果がでてきたことによるものだと考えています。

② 特許関係収入（特許管理システム構築支援等）およびロイヤリティ収入：1,969千円。

この内、ロイヤリティ収入については、その基になる特許のライセンス活動は引き続き継続していますが、第三者企業へのライセンス件数が減り、前年度より約50万円減少し、1,445千円となりました。

③ 大学からの業務受託収入：7,821千円。

三重大学とは引き続き、産学官連携活動業務委託契約を結んでおり、それに対する受託収入です。なお、上記の業務受託の成果として、当年度での弊社の産学官連携活動による大学・研究者に向けられた共同研究、受託研究、奨学寄附金の成約は、45件で金額は約40万円となりました。風洞実験による研究、透過型電子顕微鏡によるナノレベルの観察、液状化対策工法の開発など、大学の研究機能・技能を發揮した成果が生まれてきています。

④ 団体等からの事業受託収入（公共団体等からの調査事業受託に対する収入）：23,278千円。

みえメディカル研究会、みえ研究交流サロンなどの運営事業、伊賀市BDF高度化事業、津市ふるさと雇用事業など、前期と同じく11件の事業を三重県の県・市から事業を受託しました。

⑤ 技術指導・技術相談等に対する収入：3,516千円。

これは企業に対する技術相談・指導・研修、大学内研究設備使用の指導などに伴う企業等からの収入です。前期より約37万円増加しました。企業の技術課題の解決に具体的に役に立つケースが増えてきております。以上、営業収入の総額は、47,945千円（前期比6,739千円減）となりました。

この収入総額はこれまでの事業年度では最低額になりましたが、今後はこれを起点として、業容を如何に拡大していくかが、経営の必須課題だと考えております。（前期には、この営業収入以外に約10百万円の（国からの）マッチングファンドの収入がありました）

#### 2. 支出について

⑥ 人件費：23,099千円（アルバイト費は除く）。

前年度に比べ、約8百万円増加しました。これは冒頭に述べましたように、主に国からの人材派遣費用の自社負担増によるものです。

⑦ 大学・研究者へのロイヤリティ等還元費：806千円となりました。

全体のロイヤリティ収入（上記②を参照）が減少するとともに、TLO所有特許ロイヤリティの比率が増して大学への還元比率が低下し、前期より約85万円減少しました。

⑧ 教官・研究者への研究費等の還元額：8,209千円。

前年度に比べ約15百万円の減少になりましたが、これはマッチングファンド共同研究事業が前年度に終了したことによる減少です（この額は、共同研究や奨学寄附金のように大学に直接に支払われる研究費でなく、弊社を通して大学に還元された分です）。

⑨ 諸経費：13,619千円。

主なものは、旅費交通費、消耗品費、委託料（生協への業務委託料）などです。

以上、営業支出の総額は 45,733千円（前期比10,555千円減）となりました。その結果、決算報告書の損益計算書に示しますように、営業利益は2,212千円となり、経常利益は2,047千円となりました。

### II 2012年度事業運営と概略の収支計画について

研究費の確保は大学の喫緊の課題となっています。従ってこれまで通り、企業等との共同研究の立上げや技術指導、知財ライセンスなどの活動によって、大学への研究資金の導入の拡大をめざします。そのため、今年度も昨年度に引き続き、具体的に次のようなことに重点を置き活動します：

①共同研究の立上げ件数の増加を促す日常のコーディネートの充実

②共同研究・技術指導などによる、企業の技術基盤強化支援、また競争的研究資金獲得へのバックアップ

③企業説明会の開催支援等による、適材人材の地域企業への就職機会の増大への取組み

④企業への特許等知財関連サービスを通じての、技術戦略・経営戦略の立案などへのアドバイス

⑤新規事業立上げに際しての、技術情報などの提供

⑥上記活動を効果的に推進するために、所属するコーディネータの力量を向上することと、新規収益源の創出をめざし収益安定化を図る

また、組織体制の面では、この1～2年の間に、①新規の適材人材の確保 ②経営の若返りへの道筋をつけること などを取進めます。

＜今年度（第12期）の概略収支計画＞

リーマンショック、東日本大震災・原発事故の影響に続き、最近の超円高傾向など、“ものづくり”産業には新たな試練が生じ、会員企業もその影響を受けています。また、“事業仕分け”などの影響もあり、政府においては、TLOに関係の深い産学官連携支援策、特許流通アドバイザー制度の見直し・廃止などが取進められました。このような情勢から、24年度は、国委託の共同研究費の削減などが見込まれますが、それ以外の項目に関しては、概略は以下のように昨年度並みの予算で事業運営をすることと致します。

(収入)	
① 会員企業・団体からの会費	12,000 千円
② 大学からの受託収入	8,000 千円
③ ロイヤリティ等収入	3,000 千円
④ 団体からの事業受託収入	20,000 千円
⑤ 技術指導等収入	5,000千円
合計	48,000千円

(支出)	
⑥ TLO人件費（役員報酬含む）	23,000 千円
⑦ ロイヤリティの大学等への還元	2,000 千円
⑧ 大学／研究者等への研究費還元	10,000 千円
⑨ 諸経費	13,000 千円
合計	48,000 千円

産学官連携の活動量を質・量ともに落とさず、また昨年度に引き続き、経費削減努力をしつつ、以上の収支概略計画の下、営業損益の段階で黒字達成を目標として事業運営を行うことと致します。

貸借対照表

(2012年3月31日現在 単位：円)

資産の部		負債の部	
I. 流動資産	61,605,683	I. 流動負債	6,469,938
現金及び預金	54,117,581	未払費用	3,305,274
未収入金	6,566,102	未払法人税等	90,000
未収還付法人税等	922,000	未払消費税	850,300
II. 固定資産	186,853	前受会費	1,760,000
(有形固定資産)	120,853	預り金	464,364
工具器具備品	120,853	負債合計	6,469,938
(無形固定資産)	66,000	資本の部	
電話加入権	66,000	I. 資本金	13,000,000
		II. 利益剰余金	42,322,598
		利益準備金	3,250,000
		その他利益剰余金	39,072,598
		別途積立金	17,000,000
		繰越利益剰余金	22,072,598
		純資産合計	55,322,598
資産合計	61,792,536	負債・資本合計	61,792,536

損益計算書

(2011年4月1日～2012年3月31日 単位：円)

I. 営業損益	
1 会費収入	11,360,000
特許関連収入	524,308
大学からの業務受託収入	7,821,433
団体等からの事業受託収入	23,278,259
ロイヤリティ収入	1,445,174
技術指導料等収入	3,516,028
売上高合計	47,945,202
2 販売費及び一般管理費	45,733,338
営業利益	2,211,864
II. 営業外損益	
1 営業外収益	
補助金収入	142,615
雑収入	175,179
2 営業外費用	
補助金返還額	482,188
経常利益	2,047,470
税引前当期純利益	2,047,470
法人税・住民税等	552,700
当期純利益	1,494,770

三重TLOの現況（2012年7月1日現在）(TLOの承認:2002年4月16日 文部科学大臣、経済産業大臣)

1. 株式の状況

(1)発行する株式総数 800株 (2)発行済株式総数 260株 (3)株主数 160名

2. 従業員の状況

常勤管理者1名（代表取締役社長）、コーディネータ5名（週5日勤務・1名、4日勤務・1名、3日勤務・1名、1日勤務・2名） 事務補助者3名（パートタイマー）

3. 取締役および監査役

取締役会長 森野 捷輔（三重大学元理事・副学長）

代表取締役 圓城寺英夫（三重大学元客員教授）

取締役 武田保雄（三重大学理事・副学長）

取締役 菅原 庸（三重大学名誉教授）

取締役 村上 一仁（住友電装(株)元取締役）

取締役 國枝勝利（三重TLO 事業推進部長）

取締役 松井 純（三重大学社会連携研究センター特任教授）

監査役 相可友規（三重銀行元取締役）

監査役 田中 忍（㈱百五銀行 営業渉外部地域貢献課長）

㈱三重ティーエルオー

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577番地  
三重大学内

TEL : 059-231-9822 Fax : 059-231-9829

E-mail : mie-tlo@zvtv.ne.jp